

2

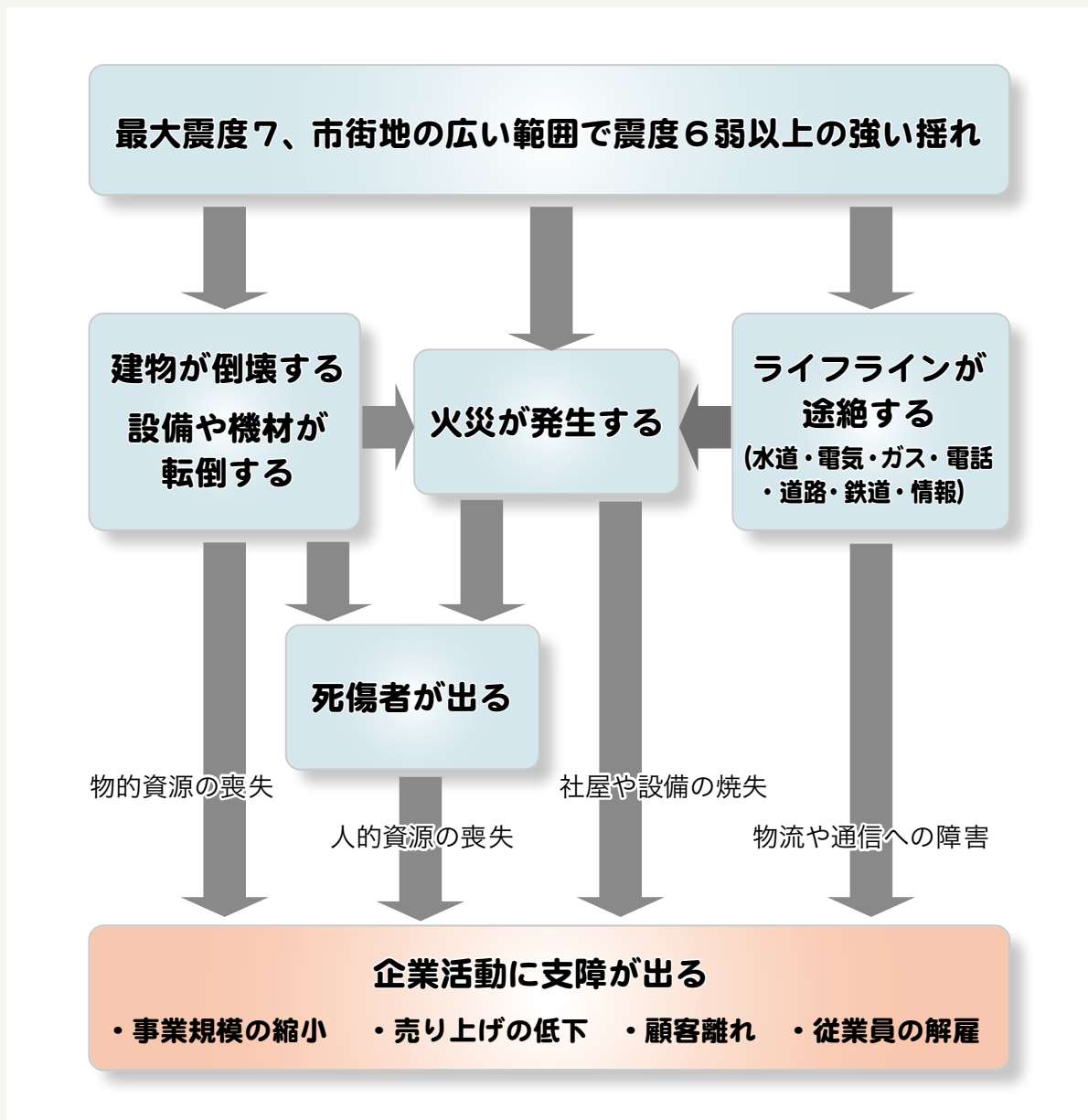
企業で想定される大きな被害

大地震が起こると、一瞬にして広い範囲で建物やライフラインが破壊されることが想定されます。従業員、社屋や設備などに被害が生じるほか、物流の停滞など、広範囲にわたって企業活動に支障が出ることも想定されます。



地震被害の連鎖

設備・人員への直接的な被害に加え、物流の混乱、取引先企業などの被災による取引停止など仕入や納品などにも少なからず影響が出ることから、平常時と同様の企業活動が難しくなります。このように地震の被害は、次々と連鎖しながら企業活動にも大きな影響を与えます。自社ではどのような被害が起こり得るか、考えてみましょう。



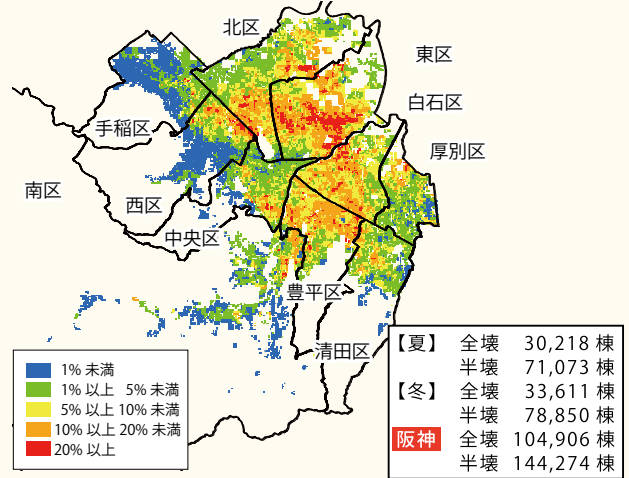
① 建物が倒壊する

ビルの外壁の落下、割れた窓ガラスの飛散、看板などの落下も起こります。また、高層のビルでは、高層階ほど大きく揺れることがあります。

特に昭和56年以前の古い耐震基準で建てられた建物では、被害が大きくなる可能性があります。



●建物被害（建物全壊率）（月寒断層）



② 設備や機材が転倒する

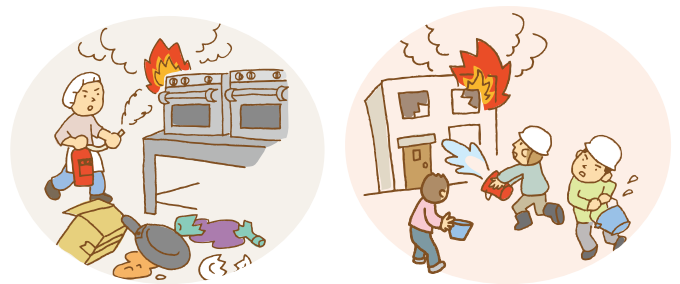
コピー機やロッカーなどで固定していない物が移動、転倒します。商品陳列棚などから物が飛び出し、落下します。大型の機械、資材などの転倒・落下による被害も発生する恐れがあります。



③ 火災が発生する

まちのあちこちで火災が起こります。消火用水が不足し、延焼を抑えることが難しくなります。

地域で火災が起こった場合は、企業からも応援に出て延焼防止に協力する必要があります。

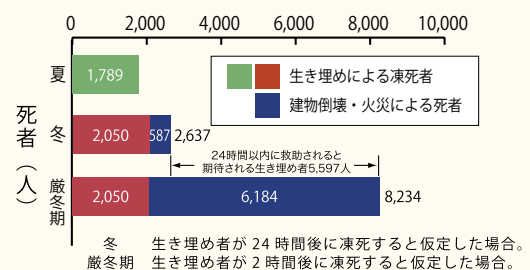


④ 死傷者が出る

建物の倒壊、設備や機材の転倒、火災などにより、死傷者が出ることがあります。

札幌における最悪の想定では、冬季に建物の下敷きになった方の凍死を考慮すると、阪神・淡路大震災を上回る 8,200 人以上の死者が想定されます。

●死傷者（午前5時発災の想定）（月寒断層）



【夏】	重傷者	3,123 人	軽傷者	27,500 人
【冬】	重傷者	3,536 人	軽傷者	30,859 人
阪神	重傷者	10,683 人	軽傷者	33,109 人

⑤ ライフラインが途絶する

電気、ガス、水道、道路などが破壊され、ライフラインが途絶します。

電話の輻輳による通信困難や、水洗トイレが使えなくなることで衛生状態が悪化することも予想されます。

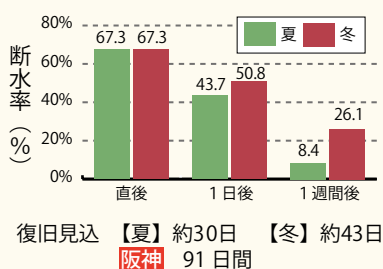
医療機関などで電源がストップすると、深刻な事態となることが考えられます。

地震直後には、交通機関がストップし、多くの帰宅困難者が発生します。

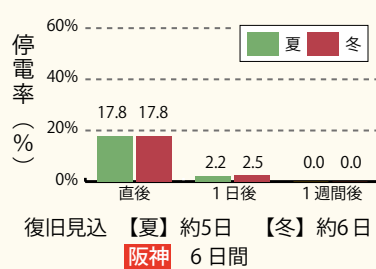
交通機関の停止や道路の機能障害などが長引くと、従業員の通勤も難しくなります。また、物流の混乱により、必要な資材・商品などの調達が難しくなることも考えられます。



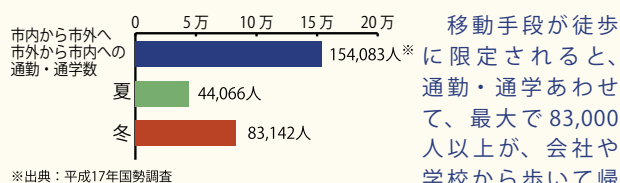
●上水道被害 (月寒断層)



●電力被害 (月寒断層)



●想定される帰宅困難者数 (月寒断層)



※帰宅困難者とは

一般的に、自宅までの距離が10kmを超えると帰宅が困難となり、20kmを超えると当日中の帰宅は不可能とされています。札幌では、冬季に地震が発生すると、積雪や寒さの影響により、歩くことができる距離が短くなるため、より多くの人が帰宅困難になることが予想されます。

●経済被害 (月寒断層)

月寒断層による最大の地震被害想定をもとに、直接被害や、経営資源への被害や生産性の低下などの間接被害を金額換算し、経済への被害を想定しています。

札幌市での経済被害【冬】

直接被害 62,673億円
間接被害 4,455億円

上記被害結果をもとにした北海道経済全体への間接的影響
7,748億円

企業活動に支障が出る

- ・事業規模の縮小
- ・売上げの低下
- ・顧客離れ
- ・従業員の解雇